

<様式1>

令和3年度 さいたま市立大砂土中学校 自己評価書

校長 高山 裕子

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 真の学力の向上をめざした学習指導の充実
「積極的な授業参加」「分かる授業の実施」「ICTの活用」
- (2) 心豊かな生徒を育成する道德教育と生徒指導、教育相談の充実
「いじめのない明るい学校」「教育相談・カウンセリングの充実」「決まりやマナーを守る」
- (3) 安全・安心で学びやすい教育環境の整備と危機意識の醸成
「安全で安心な学校生活」「安全・安心への配慮」
- (4) 学校を核としたスクール・コミュニティによる保護者・地域との連携強化
「地域の活動への関心」「チャレンジスクールへの参加」

2 評価結果について

- (1) 学校評価アンケートにおける調査結果では、「積極的な授業参加」に対する生徒の肯定的な回答が90%（前年度比2Pt増）と9割を超えることができた。さらに、「分かる授業の実施」については保護者の肯定的回答が昨年度と比べ6Pt増の68%となり、授業に対する生徒の積極性や保護者の満足度を高めることができたと分析している。また、新設項目である「ICTの活用」に対する生徒の肯定的な回答は96%と非常に高く、一人1台端末の効果的な活用が概ね実践できていると考えている。
- (2) 本年度も生徒指導部・教育相談部を中心に、積極的な生徒支援に力を入れた。生徒主体による「学校生活のルール見直しプロジェクト」や「タブレットパソコンのルール見直しプロジェクト」に取り組んだ結果、「決まりやマナーを守る」の項目では生徒の肯定的な回答が97%（前年同様）、保護者の肯定的な回答が95%（前年度比2Pt増）と高い評価を得た。
- (3) 「安全で安心な学校生活」については96%の生徒と94%の保護者から肯定的な回答を得ている。「安全・安心への配慮」についても95%の生徒から肯定的な回答を得たことから、おおむね良好と考えている。
- (4) 「地域の活動への関心」「チャレンジスクールへの参加」については、生徒・保護者の肯定的な回答が前年度に比べ10ポイント以上低い数値の項目もあり課題を残した。新型コロナウイルスの影響があったとはいえ、地域・保護者との連携の方策について新しい視点での工夫や改善を図り、今後実践していく必要がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・年度末を目途に、本年度の研究成果をまとめた「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル事例集」を作成する予定である。次年度も、生徒が主役となる実践を教科・生徒支援・領域の3分野で研究し、様々な場面で生徒の自己肯定感の向上に努め、研究主題である「自ら学び続ける生徒の育成」を目指していく。
- ・次年度から本校においてもコミュニティ・スクールが設置されることを踏まえ、安全・安心を最優先とする学校運営は継続しつつ、「防災」の視点で地域・保護者との連携を一層図っていく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。